

みずほマーケット・トピック(2016 年 9 月 2 日)

週末版

内容 1. 為替相場の動向

2. 来週の注目材料

※誠に恐れ入りますが「3. 本日のトピック」はお休みさせていただきます。

1. 為替相場の動向(関連レポート:「みずほ Customer Desk Report」、「今週の為替相場見通し」)

- ・今週のドル/円相場は上昇する展開。週初 29 日、101 円台後半でオープンしたドル/円相場は、前週末のイエレン FRB 議長講演やフィッシャーFRB 副議長のタカ派的な発言が材料視されたことに加え、堅調な日経平均株価を背景に 102 円台前半までじりじりと上昇。しかし、米金利の低下を受けてドル/円は 101 円台後半まで下落した。30 日にかけてはドル/円は一時週安値となる 101.76 円をつけるも、実需によるドル買い期待などから 102 円台前半に上昇。その後、米 8 月消費者信頼感指数の良好な結果などを好感し、ドル/円は 103 円台まで上伸した。31 日には、日経平均株価の上昇や本邦輸出企業による円買いフローも意識されると、ドル/円は 103 円台ちょうどを挟んで揉み合い推移。米 8 月 ADP 雇用統計の市場予想を上回る結果を受けてドル買いが強まると、ドル/円は 103 円台半ばまで上昇した。9 月 1 日には、103 円台前半で底堅く推移する中、ポンド/円上昇に連れてドル買いが強まると、ドル/円は一時週高値となる 104 円ちょうどをつけるも、米 8 月 ISM 製造業景気指数の市場予想を大きく下回る結果を嫌気したドル売りに 103 円台前半まで急落した。本日にかけては今晚に米 8 月雇用統計を控え、ドル/円は 103 円台前半で底堅い推移が継続している。
- ・今週のユーロ相場は下落するも週末にかけて上昇する展開。週初 29 日、1.11 台後半でオープンしたユーロ/ドルは、前週末のイエレン議長講演やフィッシャー副議長のタカ派的な発言を受けてドル買い優勢地合いに弱含む場面が見られるも、米金利低下を背景に 1.11 台後半で推移。しかし 30 日には、米 8 月消費者信頼感指数の良好な結果や米利上げ期待が高まる中でのドル買い優勢地合いに、ユーロ/ドルは 1.11 台前半まで下落した。31 日にかけては、ローゼンブレン・ボストン連銀総裁のタカ派寄りの発言にドル買い地合いが継続し、ユーロ/ドルは一時週安値となる 1.1123 をつけたが、9 月 ECB 理事会における緩和観測の後退や欧州株価の堅調推移を受けて 1.11 台半ばまで反発。9 月 1 日は、英経済指標の好調な結果を受けたポンドの上昇や、米 8 月 ISM 製造業景気指数の市場予想を大きく下回る結果を嫌気したドル売りに、ユーロ/ドルは一時週高値となる 1.1206 まで急伸。本日にかけてもユーロ/ドルは同水準での推移が継続している。

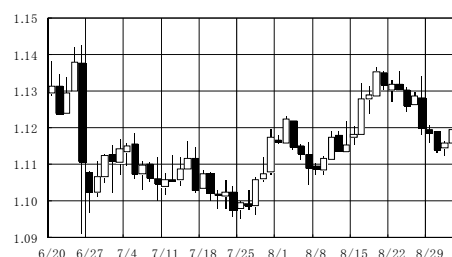
今週のおもな金融市場動向(出所:ブルームバーグ、みずほ銀行)

		前週末	今 週				
		8/26(Fri)	8/29(Mon)	8/30(Tue)	8/31(Wed)	9/1(Thu)	
ドル/円	東京9:00	100.56	101.94	101.84	102.87	103.32	
	High	101.94	102.39	103.14	103.54	104.00	
	Low	100.06	101.84	101.76	102.87	103.06	
	NY 17:00	101.82	101.91	102.97	103.42	103.23	
ユーロ/ドル	東京9:00	1.1286	1.1196	1.1190	1.1150	1.1156	
	High	1.1341	1.1208	1.1192	1.1166	1.1206	
	Low	1.1180	1.1158	1.1133	1.1123	1.1127	
	NY 17:00	1.1200	1.1189	1.1142	1.1158	1.1197	
ユーロ/円	東京9:00	113.47	114.14	113.95	114.71	115.27	
	High	114.13	114.69	114.93	115.43	115.80	
	Low	113.10	113.97	113.88	114.71	115.05	
	NY 17:00	113.98	113.98	114.79	115.38	115.58	
日経平均株価		16,360.71	16,737.49	16,725.36	16,887.40	16,926.84	
TOPIX		1,287.90	1,313.24	1,312.81	1,329.54	1,337.38	
NYダウ工業株30種平均		18,395.40	18,502.99	18,454.30	18,400.88	18,419.30	
NASDAQ		5,218.92	5,232.33	5,222.99	5,213.22	5,227.21	
日本10年債		-0.07%	-0.06%	-0.08%	-0.06%	-0.05%	
米国10年債		1.63%	1.56%	1.57%	1.58%	1.57%	
原油価格(WTI)		47.64	46.98	46.35	44.70	43.16	
金(NY)		1,325.90	1,327.10	1,316.50	1,311.40	1,317.10	

ドル/円相場の動向



ユーロ/ドル相場の動向



2. 来週の注目材料

- ・欧州では、8日(木)にECB理事会が開催される。前回の理事会(7月20～21日開催)後の記者会見において、ドラギ ECB 総裁は「時が経過すれば新しいスタッフ経済見通しを含めてより多くの情報が得られ、マクロ経済情勢の基調を再評価できるようになる」などと述べ、今回の理事会における追加緩和の可能性を示唆している。もっとも、8月18日に公表された議事要旨では、英国のEU離脱(Brexit)方針決定の持つ影響が限定的であり、内外経済は堅調に推移するとの見通しが示された。前回理事会後も、Brexit 問題による欧州経済指標への大きな影響は見られず、景気動向に鑑みれば急いで追加緩和に踏み切る必要性は大きくない。但し、ユーロ圏消費者物価指数(HICP)は低い伸びに止まっているほか、インフレ期待を示す5年先5年物インフレスワップ(5年5年BEI)は史上最低水準で推移している。そのため、Brexit 問題による経済の下振れリスクが残る中、冴えない物価動向を背景に追加緩和に向けた地ならしを行う可能性はある。具体的には、拡大購入資産プログラム(APP)に関する33%ルールや買い入れ金利に係る制限の撤廃などパラメーターの変更が考えられる。その後、経済情勢を見つつ、10月ないしは12月の理事会においてAPP購入上限の拡大といった本格的な緩和に踏み切っていくと見る。このほか、5日(月)にユーロ圏7月小売売上高、6日(火)にユーロ圏4～6月期GDP(確報値)、7日(水)に英7月鉱工業生産指数、独7月鉱工業生産指数が発表され、9日(金)～10日(土)にEU財務相・中央銀行総裁会議が開催される予定である。
- ・本邦では、5日(月)に黒田日銀総裁のきさらぎ会における講演が予定されている。次回の日銀金融政策決定会合(20日～21日)における金融政策の「総括的な検証」を前に、黒田総裁の追加緩和策及び物価目標に対するスタンスについて注目が集まる。8月27日に開催されたジャクソンホール経済シンポジウムにおいて、黒田総裁は+2%という物価目標を堅持したほか、マイナス金利導入の効果を強調し、更に追加緩和余地は十分に残されているとの認識を示した。今回の講演では、ジャクソンホールで言及がなかった「2年」という物価目標達成に向けた期間や、国債買い入れ策に対する認識について発言が見られるかが注目点となる。このほか、8日(木)に4～6月期GDP(確報値)の発表が予定されている。
- ・米国では、7日(水)に米地区連銀経済報告(ページブック)が公表される。前回公表(7月13日)分では、大半の地区で緩やかなペースで景気が拡大しているほか、労働市場は安定する一方、賃金上昇圧力の高まりは限定的であるとした。前回公表後に発表された8月非農業部門雇用者数は堅調な伸びを示す一方で、平均時給の伸び率はほぼ横這い推移となるなど、雇用が安定するも賃金は伸び悩むという構図は変わっていない。そのため、今回公表分も前回とほぼ同じ内容になると想定する。このほか、経済指標では6日(火)に8月ISM非製造業景気指数、FRB高官発言では、7日(水)にウィリアムス・サンフランシスコ連銀総裁、9日(金)にローゼングレン・ボストン連銀総裁の講演が予定されている。

	本 邦	海 外
9月2日(金)	_____	・米8月雇用統計 ・米7月貿易収支 ・米7月製造業新規受注 ・米7月耐久財受注(確報)
4日(日)	_____	・G20 浙江省杭州・サミット(9月4～5日)
5日(月)	・7月毎月勤労統計	_____
6日(火)	_____	・米8月労働市場情勢指数 ・米8月ISM非製造業景気指数 ・ユーロ圏4～6月期GDP(確報)
7日(水)	・7月景気動向指数(速報)	・米ページブック ・独7月鉱工業生産
8日(木)	・7月国際収支 ・4～6月期GDP(確報) ・8月貸出・預金動向 ・8月景気ウォッチャー調査	・米7月消費者信用残高 ・ECB理事会(フランクフルト)
9日(金)	・8月マネーストック ・7月第三次産業活動指数	・米7月卸売売上高 ・独7月貿易収支 ・ユーロ圏財務相会合(ブラチスラバ(スロバキア))

【当面の主要行事日程(2016年9月～)】

米FOMC(9月20～21日、11月1～2日、12月13～14日)
 日銀金融政策決定会合(9月20～21日、10月31～11月1日、12月19～20日)
 G20財務相・中央銀行総裁会議(10月6日、ワシントンD.C.)
 ユーロ圏財務相理事会・EU経済・財務相理事会(10月10～11日、ルクセンブルク)
 ECB理事会(10月20日、12月8日、2017年1月19日)

国際為替部

チーフマーケット・エコノミスト

唐鎌 大輔 (TEL:03-3242-7065)

daisuke.karakama@mizuho-bk.co.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。

経済指標カレンダー(2016年9月)

月	火	水	木	金	週末
			1 日本 法人企業統計(4～6月期) 日本 自動車販売台数(8月) 米国 労働生産性(確報、4～6月期) 米国 建設支出(7月) 米国 ISM製造業景気指数(8月)	2 日本 マネタリーベース(8月) 米国 雇用統計(8月) 米国 貿易収支(7月) 米国 製造業新規受注(7月) 米国 耐久財受注(確報、7月)	G20(浙江省杭州・サミット、4～5日)
5 日本 毎月勤労統計(7月)	6 米国 労働市場情勢指数(8月) 米国 ISM非製造業景気指数(8月) ユーロ圏 GDP(確報、4～6月期) ドイツ 製造業受注(7月)	7 日本 景気動向指数(速報、7月) 米国 ページ・ブック ドイツ 鉱工業生産(7月)	8 日本 国際収支(7月) 日本 GDP(確報、4～6月期) 日本 貸出・預金動向(8月) 日本 景気ウォッチャー調査(8月) 日本 企業倒産件数(8月) 米国 消費者信用残高(7月) ユーロ圏 ECB理事会(フランクフルト)	9 日本 マネーストック(8月) 日本 第三次産業活動指数(7月) 日本 即売売上高(7月) ユーロ圏 財務相会合(ブラチスラバ(スロバキア)) ドイツ 貿易収支(7月)	10 ユーロ圏 EU経済・財務相理事会(ブラチスラバ)
12 日本 機械受注(7月) 日本 企業物価(8月)	13 日本 法人企業景気予測調査(7～9月期) 米国 財政収支(8月) ドイツ ZEW景況指数(9月)	14 日本 鉱工業生産(確報、7月) ユーロ圏 鉱工業生産(7月)	15 米国 経常収支(4～6月期) 米国 小売売上高(8月) 米国 フィラデルフィア連銀製造業景気指数(9月) 米国 生産者物価(8月) 米国 ニューヨーク連銀製造業景気指数(9月) 米国 鉱工業生産(8月) 米国 企業在庫(7月) ユーロ圏 消費者物価(確報、8月) ユーロ圏 貿易収支(7月)	16 米国 消費者物価(8月) 米国 ミシガン大学消費者マインド(速報、9月) 米国 TICレポート(対内対外証券投資、7月) ユーロ圏 EU首脳会議(ブラチスラバ)	
19 日本 敬老の日 ユーロ圏 経常収支(7月)	20 日本 金融政策決定会合(～21日) 米国 FOMC(～21日) 米国 住宅着工(8月)	21 日本 貿易収支(8月)	22 日本 秋分の日 米国 中古住宅販売(8月) 米国 景気先行指数(8月)	23 ユーロ圏 製造業PMI、サービス業PMI(9月)	
26 日本 景気動向指数(確報、7月) 米国 新築住宅販売(8月) ドイツ IFO企業景況指数(9月)	27 日本 日銀金融政策決定会合議事要旨(7月28～29日開催分) 日本 企業向けサービス価格(8月) 米国 S&Pコアロジックケースシラー住宅価格(7月) 米国 消費者信頼感指数(9月)	28 米国 耐久財受注(速報、8月)	29 日本 商業販売統計(8月) 米国 GDP(3次速報、4～6月期)	30 日本 金融政策決定会合による主な意見(9月20～21日開催分) 日本 労働力調査(8月) 日本 家計調査(8月) 日本 全国消費者物価(8月) 日本 東京都都区消費者物価(9月) 日本 鉱工業生産(速報、8月) 日本 住宅着工(8月) 米国 個人所得・消費(8月) 米国 PCEコアデフレーター(8月) 米国 ミシガン大学消費者マインド(確報、9月) ユーロ圏 失業率(8月) ユーロ圏 消費者物価(速報、9月)	

(注)*を付したものは公表予定が未定であることを示す。
 (資料)ブルームバーグ等より、みずほ銀行作成

経済指標カレンダー(2016年10月)

月	火	水	木	金	週末
3 日本 日銀短観(9月調査) 日本 自動車販売台数(9月) 米国 建設支出(8月) 米国 ISM製造業景況指数(9月)	4 日本 マネタリーベース(9月)	5 米国 ADP雇用統計(9月) 米国 貿易収支(8月) 米国 ISM非製造業景況指数(9月) 米国 製造業新規受注(8月) 米国 耐久財受注(確報、8月)	6 ドイツ 製造業受注(8月) G20財務大臣・中央銀行総裁会議(ワシントンD.C.)	7 日本 景気動向指数(速報、8月) 日本 毎月勤労統計(8月) 米国 雇用統計(9月) 米国 卸売売上高(8月) 米国 消費者信用残高(8月) ドイツ 鉱工業生産(8月) IMF世銀・年次総会(ワシントンD.C.～9日)	
10 日本 体育の日 日本 *企業倒産件数(9月) ユーロ圏 財務相会合(ルクセンブルク) ドイツ 貿易収支(8月)	11 日本 景気ウォッチャー調査(9月) 米国 労働市場情勢指数(9月) ユーロ圏 EU経済・財務相理事会(ルクセンブルク) ドイツ ZEW景況指数(10月)	12 日本 機械受注(8月) 日本 国際収支(8月) 米国 FOMC議事要旨(9月20～21日開催分) ユーロ圏 鉱工業生産(8月)	13 日本 貸出・預金動向(9月)	14 日本 マネーストック(9月) 日本 国内企業物価(9月) 米国 小売売上高(9月) 米国 生産者物価(9月) 米国 企業在庫(8月) 米国 ミシガン大学消費者マインド(速報、10月) 米国 *財政収支(9月) ユーロ圏 貿易収支(8月)	
17 日本 鉱工業生産(確報、8月) 米国 ニューヨーク連銀製造業景況指数(10月) 米国 鉱工業生産(速報、9月) ユーロ圏 消費者物価(確報、9月)	18 米国 消費者物価(9月) 米国 米TICレポート(対内対外証券投資、8月)	19 米国 住宅着工(9月) 米国 ページュブック	20 米国 中古住宅販売(9月) 米国 景気先行指数(9月) 米国 フィラデルフィア連銀製造業景況指数(10月) ユーロ圏 経常収支(8月) ユーロ圏 ECB理事会(フランクフルト) ユーロ圏 EU首脳会議(ブリュッセル)	21	
24 日本 貿易統計(9月) 日本 景気動向指数(速報、8月) ユーロ圏 製造業PMI、サービス業PMI(10月)	25 米国 S&Pコアロジックケース・シラー住宅価格(8月) 米国 消費者信頼感指数(10月) ドイツ IFO企業景況指数(10月)	26 日本 企業向けサービス価格(9月) 米国 新築住宅販売(9月)	27 米国 耐久財受注(速報、9月)	28 日本 労働力調査(9月) 日本 全国消費者物価(9月) 日本 東京都都区消費者物価(10月) 日本 家計調査(9月) 米国 雇用コスト(7～9月期) 米国 GDP(1次速報、7～9月期) 米国 ミシガン大学消費者マインド(確報、10月)	
31 日本 日銀金融政策決定会合(～11月1日) 日本 鉱工業生産(速報、9月) 米国 個人所得・消費(9月) 米国 シカゴ購買部協会景況指数(10月) ユーロ圏 GDP(速報値、7～9月期)					

(注)*を付したものは公表予定が未定であることを示す。
(資料)ブルームバーグ等より、みずほ銀行作成

バックナンバーをご希望の方は以下のサイトからお取り頂くことも可能です
<http://www.mizuho-bank.co.jp/forex/esgn.html>

発行年月日	過去6か月のタイトル
2016年8月30日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2016年7月分)
2016年8月29日	イエレン議長講演を受けて～「短期は強気、長期は弱気」～
2016年8月26日	週末版(ドル高相場の読み方、考え方～何を、どう見ておくべきか～)
2016年8月24日	最近のユーロ相場の状況について
2016年8月23日	黒田日銀総裁インタビューを受けて
2016年8月22日	ECB理事会議事要旨(7月20～21日開催分)
2016年8月19日	週末版(円安・円高の正しい評価とは～交易条件、実質所得、IS/バランスなどの観点から～)
2016年8月18日	FOMC議事要旨(7月26～27日開催分)～自信喪失?～
2016年8月17日	「円買い」ではなく「ドル売り」に主導された円高
2016年8月16日	リスクシナリオとしての世界経済の底打ち機運
2016年8月15日	本邦4～6月期GDP～実質所得環境は改善中～
2016年8月12日	週末版(人民元ショックから1年～『国際金融のトリレンマ』に照らしたおさらい)
2016年8月10日	円相場の基礎的需給環境～2016年上半期～
2016年8月5日	週末版(総括的検証で問われるべきは「戦術」ではなく「戦略」の妥当性～『失敗の本質』は何か～)
2016年8月4日	イタリア問題Q&A～Italeaveまで至るか否か～
2016年8月3日	今一度確認しておきたい米利上げとドル高の意味
2016年8月2日	欧州銀行に対するストレステスト～残るイタリアへの不安～
2016年8月1日	日銀金融政策決定会合を終えて(7月28～29日開催分)
2016年7月29日	週末版
2016年7月28日	FOMCを終えて(7月26～27日開催分)
2016年7月26日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2016 年6月分)
2016年7月22日	週末版(ECB理事会を終えて～「嵐」の前の静けさ～)
2016年7月21日	日銀金融政策決定会合プレビュー(7月28～29日開催分)
2016年7月20日	明らかに開始したBrexitの下押し圧力について
2016年7月19日	「空気を読まない」EU政策当局への危機感
2016年7月15日	週末版(ECB理事会プレビュー～現状維持も「次の一手」は近い～)
2016年7月14日	危う過ぎるヘリマネ議論～円の信認を「叩き壊す」政策～
2016年7月13日	ドル/円相場、急騰の解釈～「木」ではなく「森」を見るべき～
2016年7月11日	米6月雇用統計～いよいよ論戦が漂い始めた米利上げ～
2016年7月8日	週末版(円相場の基礎的需給環境について～頭打ちの経常黒字～)
2016年7月7日	FOMC議事要旨～崩れ始めるファイティングポーズ～
2016年7月4日	経験則に学ぶドル/円相場の「波」～簡単には終わらず～
2016年7月1日	週末版(BrexitにEUの責任はないのか?～ユーロ圏を「監獄」にしないために～)
2016年6月27日	Brexit後のリスク要因再点検～トランプリスクとFRB緩和リスク～
	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2016 年5月分)
2016年6月24日	週末版
2016年6月23日	TLTRO II プレビュー～6月23日、もう1つの論点～
2016年6月21日	英国のEU離脱(Brexit)とユーロ相場見通し
2016年6月20日	英議員殺害で思い返されるアンナ・リンド事件
2016年6月17日	週末版(日銀金融政策決定会合を終えて～「No」と言う勇気と奇襲の「ツケ」～)
2016年6月16日	FOMCを終えて～「利上げの有無」を超えて～
2016年6月15日	英国のEU離脱(Brexit)を巡るQ&A
2016年6月14日	ドル/円相場、水準感の整理～攻守交代の時～
2016年6月10日	週末版(7月以降、ECBは現状維持を貫けるか～戻らないHICPIに苦しめられる公算～)
2016年6月9日	日銀金融政策決定会合プレビュー
2016年6月8日	円相場の基礎的需給環境について
2016年6月7日	イエレンFRB議長講演と米雇用情勢について
2016年6月6日	米5月雇用統計～もはや正常化以前の問題か～
2016年6月3日	週末版(ECB理事会を終えて～2周年を迎えたマイナス金利～)
2016年6月2日	消費増税先送りと「悪い円安」論について
2016年6月1日	年内「最後の円安」に備える時か
2016年5月30日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2016 年4月分)
2016年5月27日	週末版(本日のトピック:ECB理事会プレビュー～目玉政策を控えて現状維持～)
2016年5月26日	投機ポジションにおける「ドル買いの正体」
2016年5月25日	米通貨・金融政策の捻じれ～「ドル高の罠」から抜けられず～
2016年5月23日	仙台G7を終えて～論点変わらず見通しに影響なし～
2016年5月20日	週末版
2016年5月18日	本邦1～3月期GDP～「不都合な結果」とはならず～
2016年5月17日	ECBのバランスシートとユーロ相場の関係などについて
2016年5月16日	消費増税先送り報道と市場への影響などについて
2016年5月13日	週末版(マイナス金利導入から3か月～外的要因に圧倒される状況続く～)
2016年5月12日	円相場の基礎的需給環境について～第1四半期を終えて～
2016年5月11日	伊勢志摩合意に必要なドイツの説得
2016年5月9日	薄れる米雇用統計の影響力～「量」と「質」の捻じれも懸念～
2016年5月6日	週末版(米為替政策報告書と「秩序的(orderly)」について～結局はドル高が辛くなっただけ～)
2016年4月28日	日銀金融政策決定会合～「良い球」を逃した結末は……～
	週末版(FOMCを終えて～論点は変わらずドル高懸念～)
2016年4月26日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2016年3月分)
	「原油価格上昇&円安」をどう考えるべきか?
2016年4月25日	3週間ぶりの111円台を受けて～想定通りの円安～
2016年4月22日	週末版(ECB理事会を終えて～「不都合な真実」を黙殺したドラギ総裁～)
2016年4月21日	日銀金融政策決定会合プレビュー～日銀版TLTRO2か～
2016年4月20日	ECB理事会プレビュー～強まる日本化・円化・日銀化～
2016年4月19日	震災と為替～2011年3月を参考にすべきか?～
2016年4月18日	G20を終えて～追加緩和、「やるなら今」か?～
2016年4月15日	週末版(黒田総裁NY講演を受けて思うこと～「最凶の緩和スキーム」にならないために～)
2016年4月14日	ドル高、金利上昇に脆弱な米経済の現状
2016年4月13日	通貨安競争回避で最も分が悪いユーロ圏(≡ドイツ)
2016年4月12日	敢えて探す円安材料と国際的文脈の踏まえ方
2016年4月11日	円高を巡るQ&A～よくある照会の論点整理～
2016年4月8日	週末版
2016年4月7日	FOMC議事要旨(3月15～16日開催分)
2016年4月6日	ドル/円相場、110円割れの読み方
2016年4月5日	深まるユーロ圏のディスインフレとユーロ高懸念
2016年4月4日	QQE3周年と海外の反応～米国講演を踏まえて～
2016年4月1日	週末版
2016年3月28日	日銀、「5分で読めるマイナス金利」に思うこと
2016年3月25日	週末版
2016年3月24日	ユーロ相場、再考～実質金利、PPP、実質実効為替相場～
2016年3月23日	ブリュッセルテロを受けて～目立つ英ポンドの動揺～
2016年3月22日	ユーロ圏経常黒字とユーロ相場の近況について
2016年3月18日	週末版(過去2か月のG3通貨相場から言えること～基軸通貨には逆らえず～)
2016年3月17日	FOMCを終えて～やはり「2回出来れば御の字」の米利上げ～